

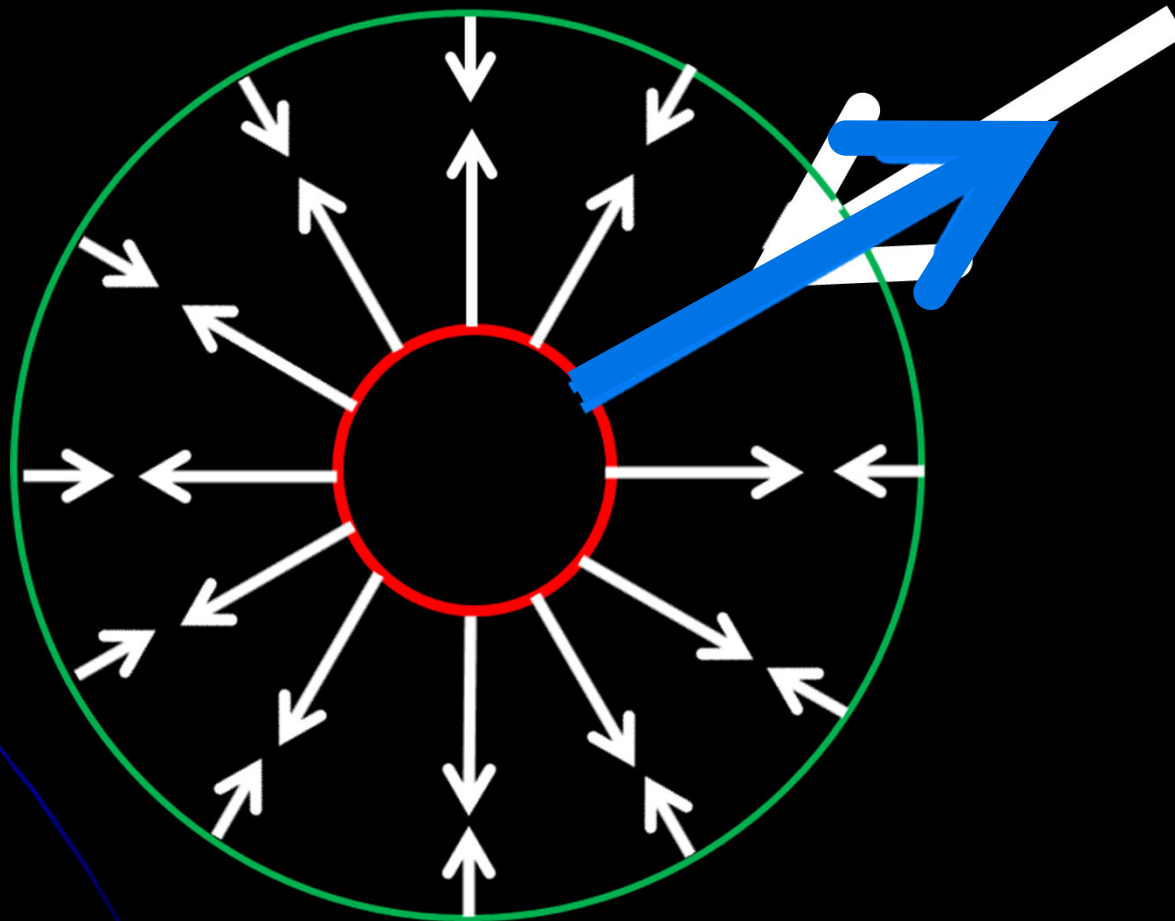
条件反射制御法 講義9

規制薬物乱用者の責任能力と対応する ∞ 連携

重要図

特定の行動を司る反応が強い

特定刺激が強・高頻度



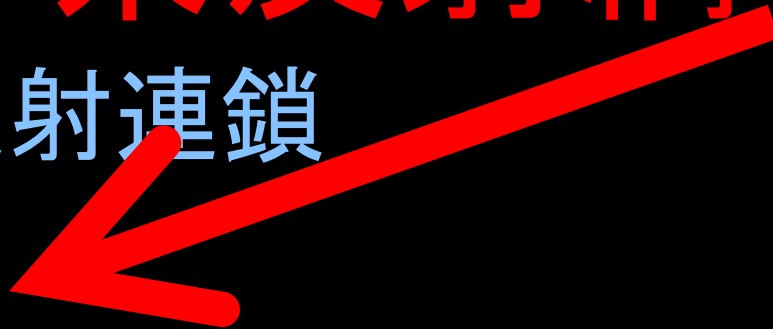
第一信号系 < 第二信号系

特定行動に関して行動制御能力有り

第二信号系反射網(思考)

第一信号系の反射連鎖

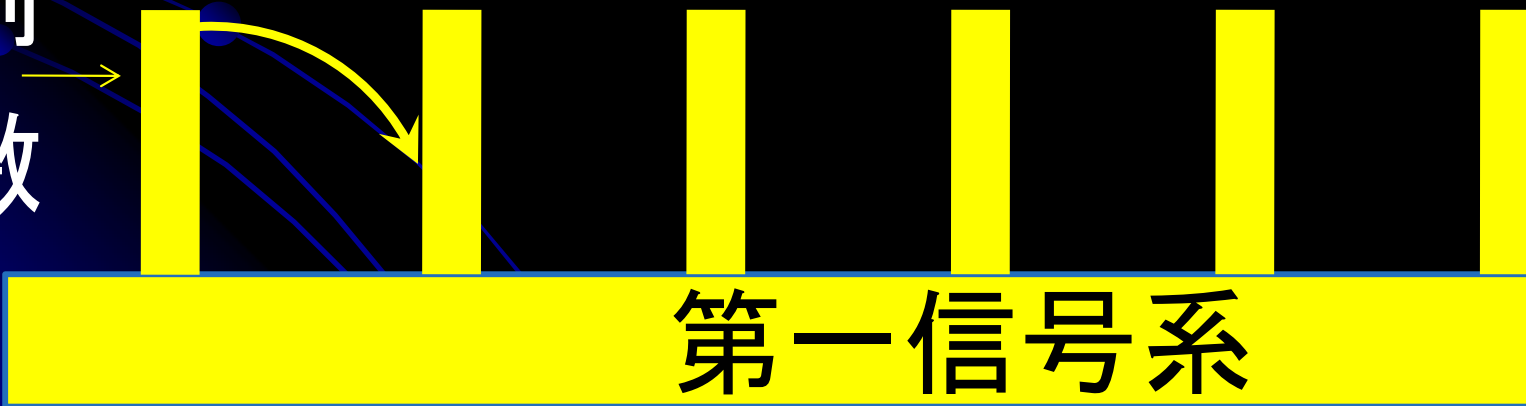
行動



生理的
報酬



刺激

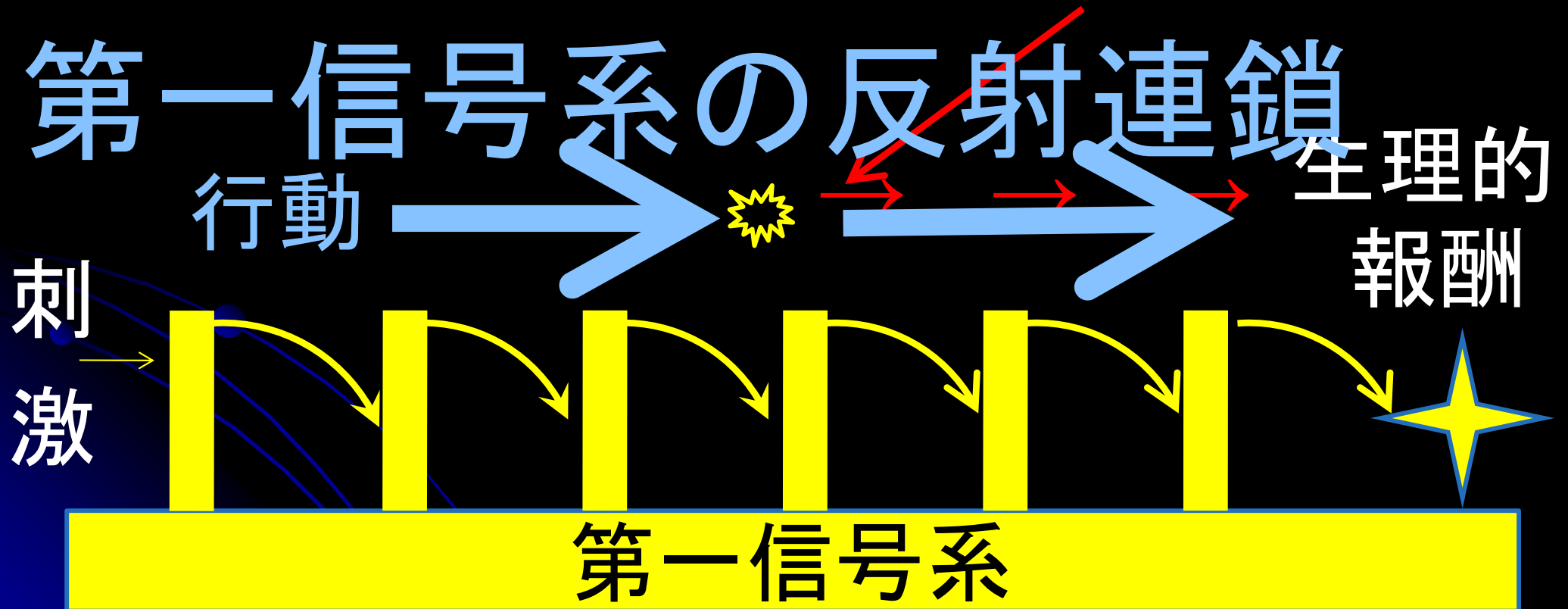


第一信号系

第一信号系 > 第二信号系

特定行動に関して行動制御能力無し

第二信号系反射網(思考)



治療、訓練と教育、刑罰の本質

ヒトは次の作用をもつ2つの中枢で行動する

第一信号系: 反射で過去の生理的成功行動を再現

第二信号系: 思考で未来の社会的成功行動を創造

働きかけは各作用に対応させるべし

第一信号系には定型行動を司る反射の調整

治療→過剰な反射の抑制

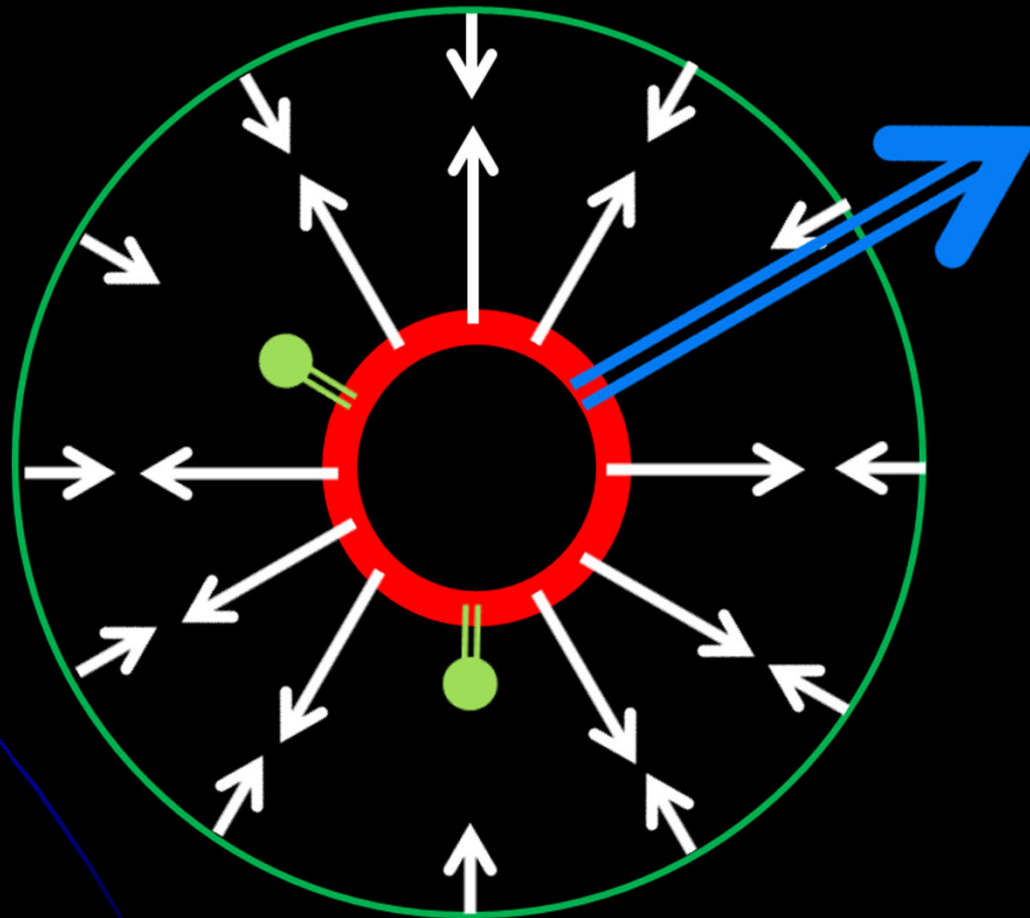
訓練→未熟な反射の強化

第二信号系には情報提供と適正行動の指導

教育→多様な情報の提供と個性の開発

刑罰→特定の義務を示し怠りに懲らしめ

特定行動を反復し社会性が低い者の反射

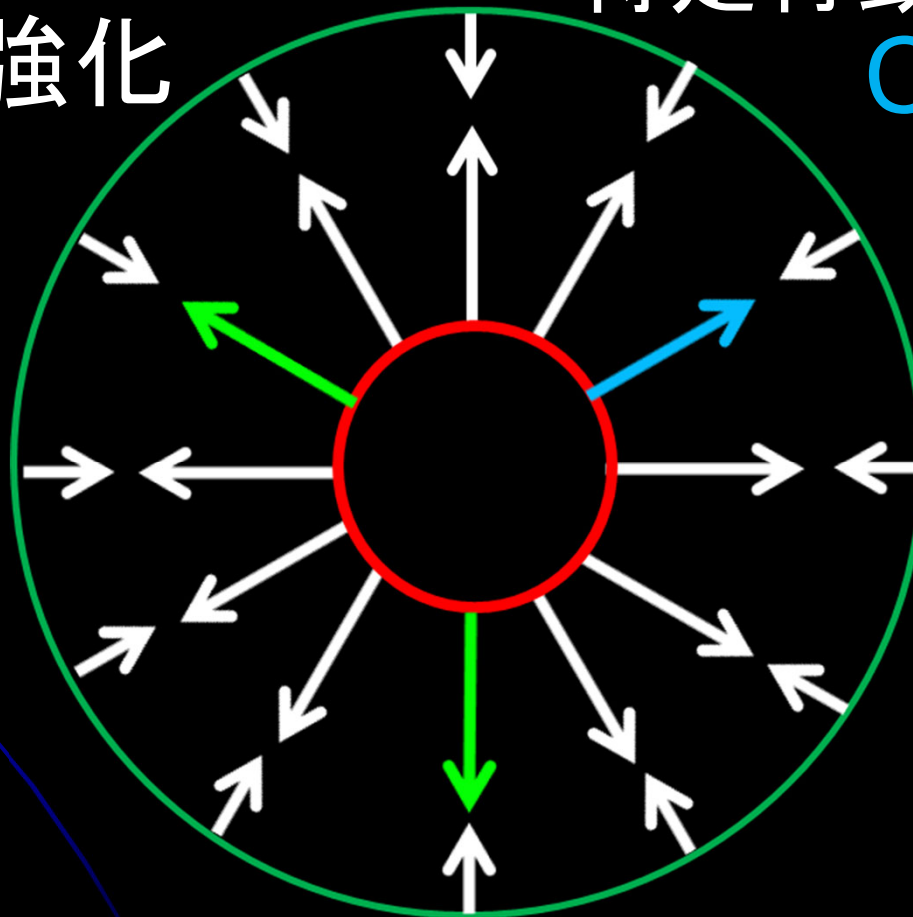


特定行動を反復し社会性が低い者の反射

対応するはたらきかけ

社会的行動を司る反射を
生活訓練で強化

特定行動を司る反射を
CRCTで抑制



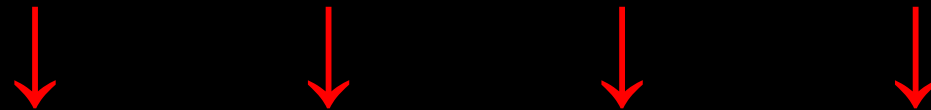
刑事司法体系が考える自由な「意思」？

ヒトは、幻覚妄想、異常な興奮、意識の異常、精神発達遅滞等がなければ、あるいは軽度であれば、「意思」が自由に機能し、

1. 事理弁識能力と

2. 行動制御能力をもち、

自分の行為に対して責任能力がある。



第一信号系より優勢な第二信号系
を必ずもつと想定している誤りがある。

治療体系と刑事司法体系は連携すべし

第一信号系には定型行動を司る反射の調整

第二信号系には情報提供と適正行動の指導

対応体系

援助側

取締処分側

治療, 訓練

法の抑止力, 教育

第一信号系

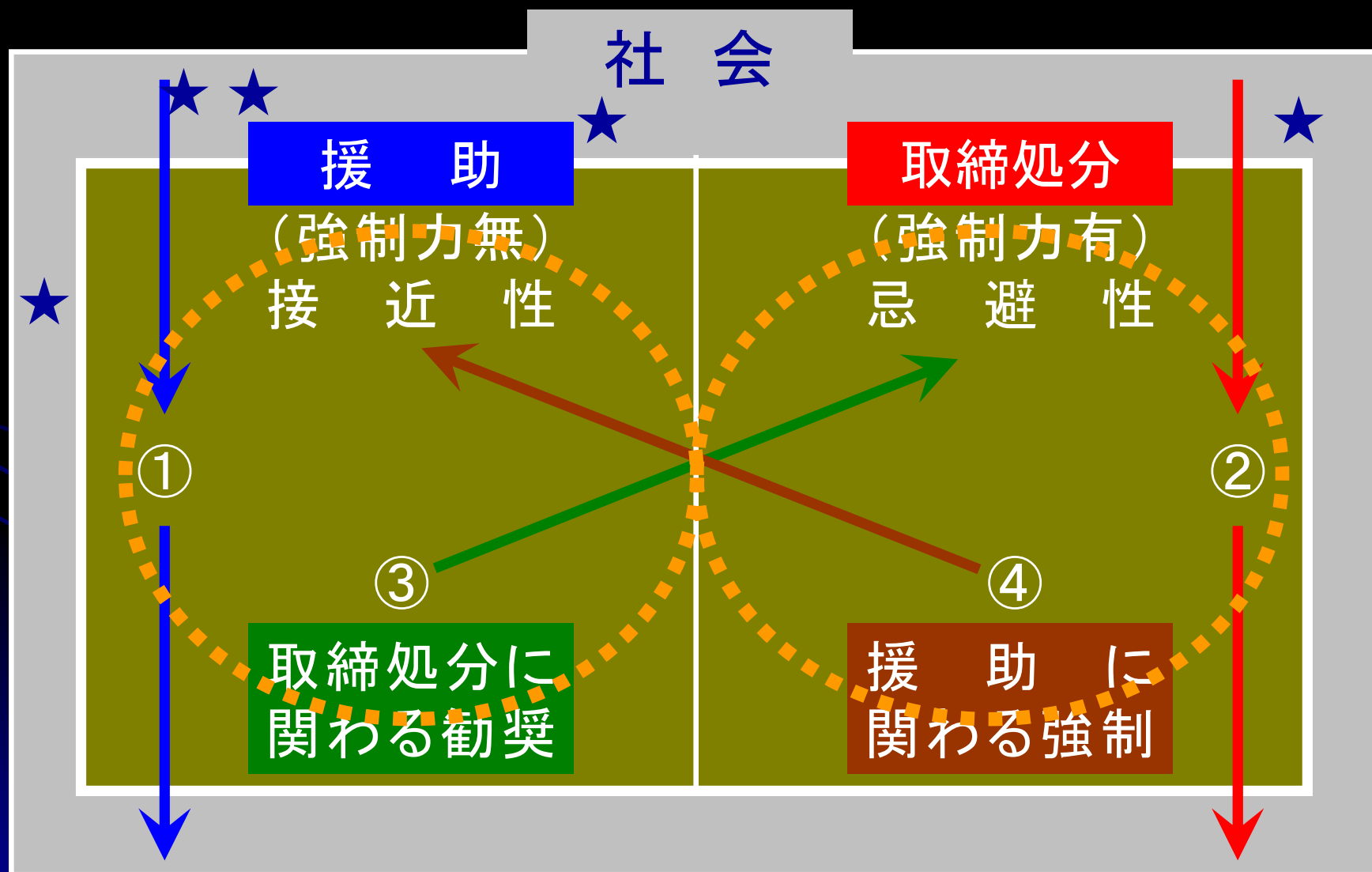
反射連鎖

第二信号系

反射網

逸脱行動反復者

逸脱行動削減のための 取締処分と援助の連携



各働きかけの態勢

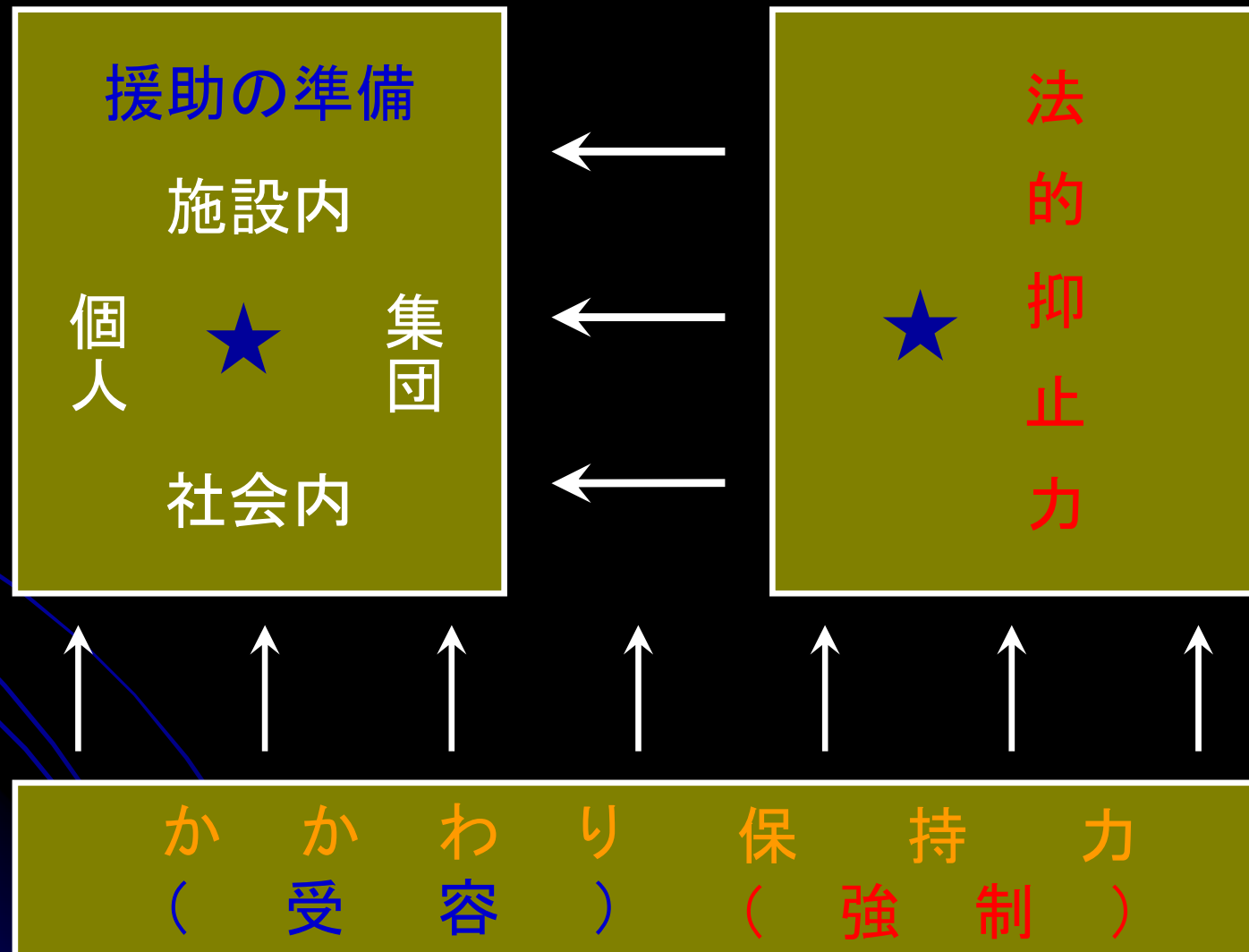
取締処分

強力な指導と厳正な取締、処罰
処分における、援助への関わりの強制

援助

取締機関に通報せず、援助を提供
取締処分へのかかわり勧奨

逸脱行動を予防し その反復からの回復を促進する構造



一人の逸脱行動反復者に提供される要素

1 援助の準備

2 法的抑止力

3 かかわり保持力

(強制と受容で成立)

行動制御能力が焦点

第二信号系に
広範な障害

幻聴、妄想、
気分の異常等

第一信号系が
特定行動限定で
強いという障害

物質使用障害、
病的窃盗、
性嗜好障害等

第二信号系が
自由に機能

対象行動の違法性に対する

各働きかけの態勢

行為が疾病で生じたなら不適切

取締処分

強制

強力な指導と厳正な取締、処罰

処分における、援助への関わりの強制

行為が犯罪で生じたならば不適切 ↑

援助

受容

取締機関に通報せず、援助を提供

取締処分へのかかわり勧奨

制御能力無しの被検挙者への処遇 ●

薬摂取時：第一信号系 > 第二信号系

第一信号系の問題 ← 治療と訓練

● 問題行動を作る反射連鎖 ← CRCT

▲ 低い社会性 ← 生活訓練

第二信号系の問題 ← 刑罰（と教育）

乱用回避を頑張らなかった ← 刑罰

● 治療等を選択しなかった ← 刑罰

行動制御能力に影響する要素

どちらが優勢か？各信号系の強さは？

第一信号系の作用の強さ：生理的に決まる

過去の薬物摂取と過酷な体験の累積が決定する

第二信号系の作用の強さ：社会的にも決まる

現在の強制処遇に関する情報が影響する

1) 薬物摂取の結果の重大性：

- 刑罰と強制的治療・訓練の内容・期間

2) その結果が生じる可能性：

捜査等の厳正度

疾病群の範囲設定（制御能力判定基準）

行動制御能力の判定基準？

制御能力判定基準を含む社会の規定が
行動制御能力の強さに強く影響する

ヒトが行動する本当のメカニズムに従って
社会が次の要素の程度を決めることがよい

規制薬物乱用者の行動制御能力の判定基準
は、次を示すものになる。

規制薬物乱用への社会の態勢

望む社会を作るために能動的に決める